



実用新案登録願D



後記号なし

昭和46年7月17日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

1. 考案の名称 トケイキコウ シドウ ソウチ
時計機構の始動装置

2. 考案者
ギョウデンフジワラマ
埼玉県行田市藤原町2-38-8

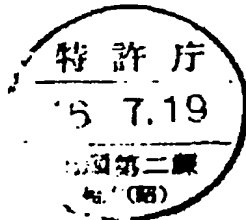
マ ダ アキ オ
町 田 昭 雄

3. 実用新案登録出願人
メグロクナカメグロ
東京都目黒区中目黒1丁目8番3号
ジエコー株式会社
セダ ギイチロウ
代換者 千 田 鑑 一 郎

4. 添付書類の目録

(1) 明 細 書	1 通
(2) 図 面	1 通

46-06256



48-36878-01

明 細 書

1 考案の名称 時計機構の始動装置

2 実用新案登録請求の範囲

復帰ばねにとつて、常に一方向に回転力を附勢されたスターター板に、中央部をほぼU字形に折曲げ、先端部に傾斜面を設けた肉薄の板ばねからなるキックレバーを装着し、該レバーの先端部を脱進機構と連動する回転体の外周に係合させて、該被駆動車に回転力を附勢するように構成した時計機構の始動装置。

3 考案の詳細な説明

本案は時計機構、特に磁気脱進機時計に用いて最適な始動装置に関する。

従来の始動装置は第4図に示すように、直線状のレバーを脱進機構と連動する回転体の外周に係合させ、該レバーの復帰時に回転体を附勢するものであつた。このためこの種の始動装置はしばしば該レバーの先端が回転体の歯部頂点に突当り、第5図に示すように突張り現象を起して、時計機構の始動を全く不能にさせてしまうことがあつた。

さらに、該レバーを回転体に係合させる際、該歯車が逆転し、磁気脱進機時計においては指針が反時計方向に回転したり、該レバーの復帰時に回転体を正方向に回転させても、前記の逆方向回転と相殺されて、所望の回転力を附勢できないということがあつた。

本案は上記突張り現象と逆転動作を防止し、確實な回転力を附勢する始動装置を提供するものである。

以下、本案実施例を図について説明すると、1は修正軸で、スプリング2によつて常に下方（第2図参照）に押圧されている。

3は修正軸1に固着する修正カナで、指針修正輪列（図示省略）と回転連結するものである。

4はスターター板で、一部を傾斜に折曲げた傾斜板4aを形成し、復帰ばね5によつて常に該傾斜板4aは前記修正カナ3の外周に押圧されている。

6は中央部6aをはばU字形に折曲げ、先端部6bに傾斜面6b'を設けた両端の板ばねからなるキャツクレバーで、一端を前記スターター板4に固着

している。7は脱進機構（図示省略）と連動する回転体で、前記キックレバー6の先端部6bの傾斜面6b'が該回転体7の外周上に隣接して位置する。

上記構成において、修正軸1をスプリング2に抗して作動させると、修正カナ3の周縁に接する傾斜板4aは復帰ばね5に抗して図上左方（矢印）に押出され、一体に構成するスターター板4及びキックレバー6を時計回転方向に回転させる。従つて、キックレバー6の先端部6bは回転体7の歯部に接するが、ある程度該回転体に回転負荷があるため、この先端部6bはその傾斜面6b'と中央部6aを折曲げたU字形部分によつて内方（スターター板4側）にたわみ、回転体7の歯部外周縁上を撓動し、再び該回転体7の周縁より離脱す。修正軸1の作動範囲（ストローク）が短い場合は当然のことながら、第1図の破線に示すように回転体7と噛合する中途段階で停止する。

次に修正軸1を手放すと、該修正軸1はスプリング2によつて、たスターター板4及びスター

ター板 4 と一体のキックレバー 6 は復帰ばね 8 によつてそれぞれ同時に復帰するが、この復帰時においてキックレバー 6 の先端部 6b が回転体 7 の外周歯部に喰込み、該回転体 7 を正方向（図上時計回転方向）に回転させる。また、この復帰時にキックレバー 6 の先端部 6b が回転体 7 の歯部頂点に突き当たった場合においても、前記と同様に中央部 6a の U 字形部分によつてこの先端部 6b は内方にたわみ、復帰ばね 8 の回転復帰力によつて突き当たり現象は解除され、引續いて該回転体に回転力を附与す。

本案は以上のようにキックレバー 6 を回転体 7 に係合させる際は中央部 6a を折曲げた U 字形部分と、先端部 6b の傾斜面 6b' とによつて、該先端部 6b は回転体 7 の外周歯部上を捫動して、回転体 7 に逆方向の回転力は与えず、復帰時にのみ正方向に回転させるものであり、さらに復帰時に上記先端部 6b が回転体 7 の歯部頂点に突き当たつても、上記 U 字形部分によつて、該先端部が内方に逃げ（たわみ）、突き当たり現象を防止するものである。

このように、本案は従来の始動装置が有していたす

すべての欠点を解決すると共に、該キツタレバーは内
薄の板ばねを折曲げるだけであるから構造も簡単に
極めて安価に提供でき、実用上の効果も大きい。

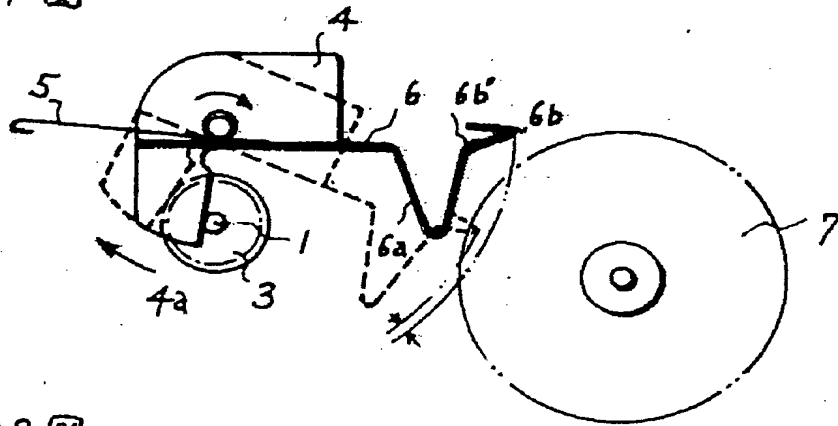
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施を示す要部平面図、第2図
は第1図の拡大側面図、第3図は突張現象の説明図、
第4図は従来例を示す概略図である。

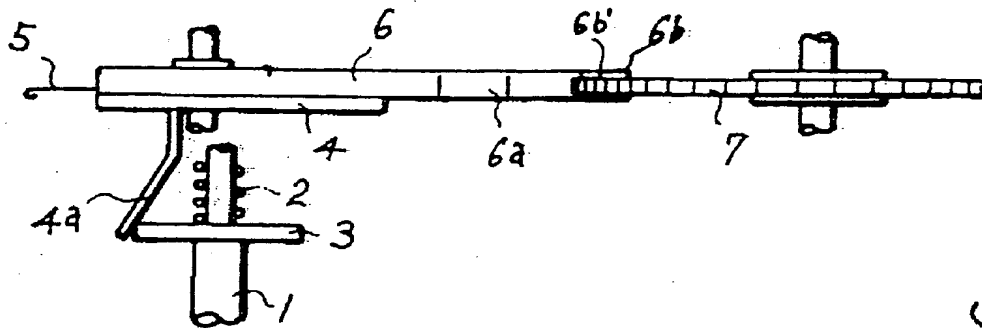
1は修正軸、4はスターター板、5は復帰ばね、
6はキツタレバー、7は回転体である。

面

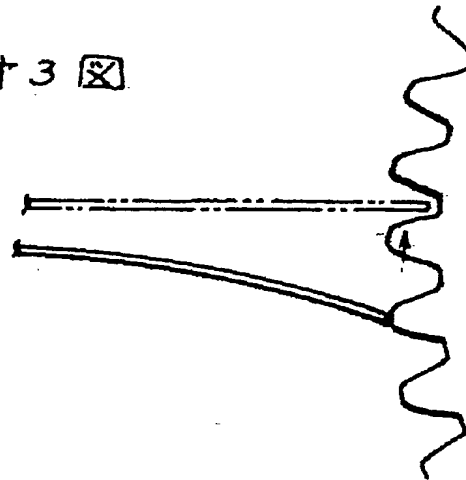
第1圖



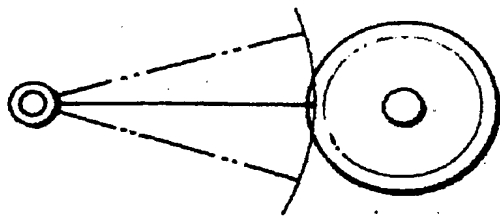
第2圖



第3圖



第4圖



48-36878-07